

交流30周年を迎えて

昭和61年8月1日に結ばれた川越市とセーレム市(アメリカ・オレゴン州)との姉妹都市提携から30年を迎えました。市では、30周年を記念し、川合善明川越市長、小ノ澤哲也川越市議長をはじめ、市議会議員、姉妹都市交流委員会委員、市民の総勢31人がセーレム市を訪問。現地では、姉妹都市提携30周年記念式典に参列し、これまでの交流を振り返り「姉妹都市再確認書」を交わし、今後さらに活発な青少年交流を進めていくことを決意しました。



板野徹さん(左)と妻の美津子さん(左から2人目)

また、滞在中に、世界の文化を紹介するオレゴン州最大のお祭り「ワールド・ピート・フェスティバル」に参加。法被を着て川越を紹介するパンフレットなどを配布する等、アメリカ国内外から集まった大勢の来場者に川越をアピールしました。今回、夫婦で参加した板野徹さん(新富町)は「30年間、中学生などの交流が盛んに行われているのは大変良いことだと思えます。文化的な交流ができるので、これからも続けてほしいです」と話してくれました。



フェスティバルに参加した川合市長(前列右から5人目)、小ノ澤市議長(前列右から6人目)、川越市民、セーレム市民の方々



姉妹都市再確認書に署名する川合市長(左)とアンナ・ピーターソンセーレム市長(右)



ふおとニュース



埼玉西武ライオンズ OB が熱血指導



7月2日、川越初雁球場で(株)西武ライオンズとの連携事業として開催された「埼玉西武ライオンズベースボールクリニック」。埼玉西武ライオンズのOB5人が、市内の中学1~2年生約90人に野球指導を行いました。

元プロ野球選手から指導が受けられる貴重な機会に少し緊張気味の生徒たちでしたが、指導が始まると、その目は真剣そのもの。OBの平尾博嗣さんは「失敗してもいいから最後までやりぬく」「何回も何回も繰り返して練習することが大切」など熱のこもったアドバイスやお手本を披露しました。こつを教わった生徒たちは、汗を流しながら、バッティングや守備練習に一生懸命取り組んでいました。



城南中学校・野球部主将の檜垣駿輔さん(写真左下・新宿町)は「埼玉西武ライオンズの方々に教えていただいたことを忘れずに、これからも野球の練習に励んでいきたいと思います」と充実した表情でした。

